

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育実習 I Application of Day care Children and Child Care I		1年・2年	集中	1年次2月、2年次9月に実施
単位数	授業の形態		授業の性格	
4単位	実験実習		選択 (保育士養成課程必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
保育士養成課程必修科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
高橋登美子・大塚登	講義棟3階・本館2階	適時対応	授業中に指示します	
授業の概要				
保育所および児童福祉施設での実習に臨み、その保育施設の機能や入所児の理解を深める。また、入所児や職員との交流を通して、保育士の職務内容、更に職業倫理、そして、子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。				
授業の到達目標				
①児童福祉施設の機能と役割を理解できるようにする。 ②入所児の発達や保育環境に適した保育を学ぶことができるようにする。 ③入所児に必要な働きかけや適切な支援を学ぶことができるようにする。				
授業の方法				
保育実習の必要性と保育の実践方法を考えながら、保育所にて11日間(実習時間90時間以上)、児童福祉施設にて11日間(実習時間90時間以上)の実習を行う。実習施設によっては土曜日、日曜日、祝祭日の実習、また行事や遠足などの園外活動にも参加する。				
学習の成果				
①児童福祉施設の機能と役割を理解に努め、保育士の仕事に責任を持って取り組むことができる。 ②入所児の発達や保育環境に適した保育を学び、知識と技術を活かした保育活動を行うことができる。 ③入所児に必要な働きかけや適切な支援を学ぶことにより、各児童福祉施設の特徴や保育理念に基づいた保育活動を行うことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	【保育所における実習】			
第2回目	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めると共に、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ			
第3回目	(1) 保育所について理解する (2) 保育の1日の流れを理解し、参加する			
第4回目	(3) 児童の観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する (4) 保育計画・指導計画を理解する			
第5回目	(5) 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術の習得を目指す (6) 職員間の役割分担とチームワークについて理解する			
第6回目	(7) 記録や保護者とのコミュニケーションを通して、家庭・地域社会を理解する (8) 児童の最善の利益を具体化する方法について学ぶ			

第7回目	(9) 保育士としての職業倫理を学ぶ (10) 安全および疾病予防への配慮について理解する		
第8回目	【児童福祉施設等における実習】		
第9回目	児童福祉施設等の生活に参加し、児童への理解を深めると共に、児童福祉施設等の機能と、そこでの保育士の職務について学ぶ。		
第10回目	(1) 実習施設について理解する (2) 養護の1日の流れを理解し、参加する		
第11回目	(3) 児童の観察やかかわりを通して、施設における児童の欲求を理解する (4) 援助計画を理解する		
第12回目	(5) 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術の習得を目指す (6) 職員間の役割分担とチームワークについて理解する		
第13回目	(7) 記録や保護者とのコミュニケーションを通して、家庭・地域社会を理解する (8) 児童の最善の利益についての配慮を学ぶ		
第14回目	(9) 福祉施設における保育士としての職業倫理を学ぶ (10) 安全および疾病予防への配慮について理解する		
第15回目	各項目の内容を実践することにより実習施設にて実習を行う		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		100%	実習施設における評価基準により評価された5段階評価に基づく。2、1の評価は不可に値する。(5:優れている、4:やや優れている、3:普通、2:やや努力を要する、1:努力を要する)
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験			
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
保育実習の手引き:佐野短期大学 実習施設において必要な知識と技術のテキストについては各自用意する			
履修上の心得・ルール			
保育実習指導Iの授業を必ず履修し、単位取得の成績を修めていること。保育士必修科目の不可科目や欠時不認定科目が多数の場合は、実習担当教員と面談の上実習実施の可否を判断する。実習に臨む態度や意欲を明確に示し、実習施設に対して適切に行動することができること。(状況に応じて、実習延期や実習中止も検討する。)			